

総合資料館だより

2007.1.1 No.150



▲山崎の「猪」(長さ11.5cm)

山 崎 の 「猪」

動物形の玩具で、猪はあまり種類がありません。この土人形の親子猪は、大山崎町の離宮八幡宮辺の土産品で、疾駆する姿はスピード感があり、まさに猪突猛進です。山崎の猪は、人形浄瑠璃や歌舞伎で人気の高い『仮名手本忠臣蔵』の五段目「山崎街道の場」に因んでいます。そして、これは実に「運の強いイノシシ」です。

女房おかるの実家の山崎で獵師をしている早野勘平が、かつての同輩千崎弥五郎と出会い、主君仇討ちの資金調達の話聞くのが悲劇の始まりです。暗闇で勘平の前に飛び出す一頭の猪。銃で仕留めたのは猪ならぬ山賊定九郎。その定九郎は、おかるの父与市兵衛を惨殺し金を奪っていました。勘平は遺体の懐の金を仇討ち資金にと思いますが、その財布は義父のもの。舅を殺したと思ひ込み勘平は切腹します。こうして五段目に出る人物は次々に不幸な目に遭う中で、一人？猪だけは無事なのです。一瞬の登場ながら印象深く、「五段目で運のいいのは猪ばかり」と、川柳にもあります。

当館蔵 (京都文化博物館管理) 舂コレクションより

目次	山崎の「猪」……………	1	平成19年知事年頭あいさつ……………	2
	文献課の窓から「津田道子氏旧蔵 地歌・箏曲関係資料」…	3	寄贈資料紹介「三条衣棚町文書」……………	4
	企画展「先人達の京都研究」……………	6	歴史資料課の窓から「天眠文庫関係資料一残された写真・図書資料から」…	8
	最近の収集資料から ……………	10	友の会事務局から 他 ……………	12

平成19年知事年頭あいさつ



地域力再生元年 …明日へ希望のもてる「京都」のために

京都府知事 山田 啓二

府民の皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年の春、多くの府民の皆様からご信託をいただき、再び府政の舵取りを担わせていただくこととなりました。本年も皆様からいただいた期待を胸に、全力を尽くして京都府政を推進してまいりますので、よろしく願いいたします。

振り返りますと、昨年は、経済・雇用情勢に徐々に明るさが増してきた一年でしたが、その一方で、府内でも児童虐待により幼い命が失われるという事件が起きるなど、全国で子どもたちをめぐる痛ましい事件が続発した年でもありました。

京都府としては、事件の経過を徹底的に検証し、その反省の上に立って、二度とこのようなことがないように、全力を尽くす決意を新たにしております。

府政の基本は、何よりも府民の皆様ご安心・安全の確保であり、その上に立って、誰もが明日に希望をもって暮らせる京都づくりをしていかなければなりません。そうした観点から昨年は、地域の安心・安全のために、府内の全小学校区で子ども・地域安全見守り隊の結成をお願いし、また、現場警察官や交番相談員を大幅に増員いたしました。さらに、都道府県では初めて、障害者自立支援のため独自の負担緩和策を講じるとともに、医師不足の進む府北部の病院に産婦人科医を派遣するなどの取組を進めてまいりました。こうした安心・安全のための施策に、多くの府民の皆様からご支援とご協力をいただき、改めて心より感謝を申し上げる次第です。

今、私たちの社会は安心・安全の問題をはじめ、教育や家庭の問題、中小企業や農林水産業の振興、環境の保全や文化の振興、地域間格差の問題など、解決しなければならない多くの課題を抱えています。とりわけ核家族化や少子高齢化の進行などを背景に、人と人との関係が希薄化し、人々が孤立化する中で、社会を支えてきた地域の力が衰えつつあり、貧富や地域間の格差の拡大がこうした傾向に拍車をかけ、温かく地域の人を見守る社会が失われつつあることが、何より心配されます。

それだけに、京都府としては、地域における信頼と絆の力を再生し、出来る限り人と人とのネットワークを強化し、京都のもつ産学公の力を結集することにより、誰もが明日に希望のもてる社会づくりに、これからも全力を挙げて取り組んでいきたいと思っております。

まさに今年を京都府の「地域力再生のための新たなスタートの年」と位置付け、市町村との連携のもと、積極的な施策の展開に努め、文化や環境など京都が古くから育んできた伝統を活かし、東京にはない京都の価値を広く内外に発信していきたいと思っております。

私たちは、北から南までこの豊かで実り多いふるさとに誇りをもち、人と人との信頼と絆を強め、弱い立場にある人々をしっかりと支えながら、「安心・安全、希望の京都」を府民の皆様と一緒に作り上げるため、本年も職員一同、全力を挙げて取り組んでまいりますので、皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

結びに当たり、この一年の府民の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

津田道子氏旧蔵 地歌・箏曲関係資料

地歌・箏曲演奏家（柳川流三味線・生田流下派箏曲・腕崎流胡弓）、社団法人京都當道会会長であった故津田道子氏が所蔵されていた地歌・箏曲に関する資料252点412冊をご遺族の津田利子氏よりご寄贈いただきました。

津田道子氏は京都生田流下派、津田青寛の次女として生まれ、父に地歌・箏曲を学び、萩原正吟に師事して地歌古典と胡弓を習得されました。その後ワシントン大学で招聘教授として日本音楽を担当し、京都教育大学音楽部、京都市立芸術大学大学院、京都女子大学音楽部の講師を歴任されました。また柳川流三味線の古譜の旋律型をコンピューターで分析して演奏し、古典音楽の復元にも努められました。

寄贈された資料は江戸時代に刊行された和装本が中心で、今回その一部をご紹介します。

地歌関係資料

『大怒佐（おおぬさ）』 初心者に三味線の弾き方を説明した本（江戸時代刊）。

糸の節 享保期以後の京都系の地歌歌本を代表するもの。内容は三味線組歌、地歌の長歌、端歌。増補刊行され、後には江戸歌まで収録した。『大成糸の節』（江戸中期頃刊）、『新增大成糸のふし』（寛政6（1794）年刊）。

糸の調 享保期以後の大阪系の地歌歌本を代表するもの。当初『糸のしらべ』（寛延4（1751）年刊）として出版後、何度も増補刊行された。『増補糸のしらべ』（宝暦年間刊）、『新大成糸のしらべ』（安永10（1781）年刊）、『琴曲新大成糸のしらべ』（天明8（1788）年刊）、『新板詞曲糸のしらべ』（寛政7（1795）年刊）、『新增大成糸のしらべ』（文化9（1812）年刊）ほか。

歌曲時習考 菊崎検校校訂。地歌の歌詞を集成した歌本で、「糸の節」、「糸の調」類以後の代表的なもの。初版は『假名数引歌曲時習考』（文化2（1805）年刊）。以後、文政版から南郊翁校訂となり、嘉永版には箏組歌部を独立させて『箏組唱歌歌曲時習考』（嘉永1（1848）年再刻）として刊行したものもあり、明治まで増補を重ねた。

『假名数引改正増補歌曲時習考』（文政1（1818）年刊、嘉永1（1848）年再刻）、『明治改撰國字數引歌曲温習考』（明治13年刊）ほか。

『生田流琴曲歌の海』 石田猪十郎編。当時京都で演奏されていた箏曲、地歌の歌詞を収録したもの（明治22年刊）。

箏曲関係資料

『松月鈔』 吉田邑琴編。箏組歌の歌本（〔元禄7（1694）〕年刊）。

『琴曲抄』 箏組歌の歌本（元禄8（1695）年刊）ほか。

撫箏雅譜集 『琴曲抄』を安村検校が補遺、校訂して刊行されたもの。宝暦4（1754）年に『琴曲洋峨撫箏雅譜集』が刊行された。文化、天保年間にも再版され、明治には山田検校校訂の『増訂撫箏雅譜集』（明治16年刊）、小松景和編纂の『増補撫箏雅譜集』（明治29年刊）も出版された。また、山田松黒編『箏曲大意抄』（寛政4（1792）年刊）や、高井伴寛編『撫箏雅譜大成抄』（文化9（1812）年刊）もこの系統にあたる。

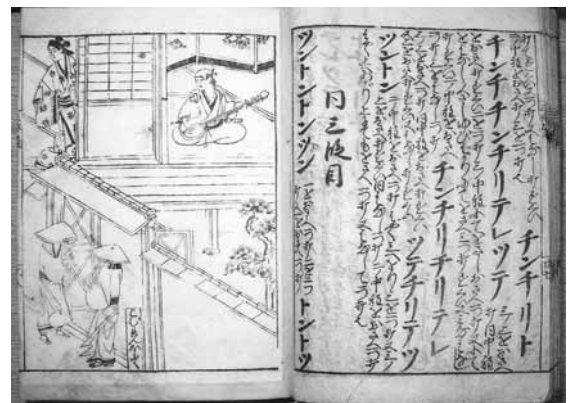
（*刊行年の〔 〕は推定を表します）

<参考文献>

『箏の基礎知識』津田道子著 1983年 音楽之友社刊（Y/768.12/1011456）

『柳川三味線 京都の響き』津田道子著 1998年 京都當道会刊（K1/768.5/Ts34）

『京都當道会史 120年のあゆみ』津田道子著 2002年 京都當道会刊（K1/768.02/Ts34）



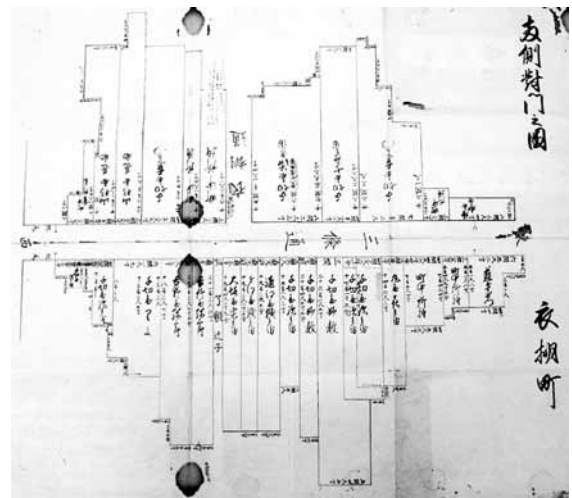
▲『大怒佐』

三 条 衣 棚 町 文 書

この度、旧三条衣棚町（京都市中京区三条通室町西入）から、同町に伝来した古文書を、京都府の歴史研究のためにとご寄贈いただきましたのでご紹介します。

三条衣棚町

同町は中世末から存在し、江戸時代は、三条通を挟んで衣棚南町、衣棚北町として別々に運営されていました。慶応4(1868)年7月に2町が合併して現在の衣棚町となりました。同町中央には、三条通から北に向かって衣棚通、南に向かって^{りょうとん}頓^{ちきり}図子があります。この附近では法衣商千切屋一門が盛況を誇っていました。



▲明治元年衣棚町両側對門之図

三条衣棚町文書分類表

大分類	小分類	点数
(1) 衣棚南町・北町	①戸口	764
	②触・達	4,109
	③町政	572
	④町願書	402
	⑤町財政	1,418
	⑥家屋敷・借屋証文	1,799
(2) 下古京上良組(古町組)		510
(3) 年行事		113
(4) 講		72
(5) 祇園会		204
(6) 近代衣棚町		153
(7) その他		123

10,239

文書の概要

当文書群は、昭和45年に結成された京都町触研究会によって、本格的に調査が行われ、平成8年に目録が刊行されています。その成果を参考にして分類し、点数を確認しますと、表のようになります。文書の年代は、慶長10(1605)年

から明治28(1895)年の約290年間にわたっています。総点数は約1万点で、当館が所蔵する京都の町文書では最大規模の文書群です。

(1) 衣棚南町・北町

江戸時代の2町が作成、取得した文書で、全体の90%を占めています。①戸口、②触・達、③町政、④町願書、⑤町財政、⑥家屋敷・借屋証文に分かれます。

なお、江戸時代以前は、2町それぞれが独自に文書を作成・取得していましたが、2町の合併とともに、文書も合わされて今日に伝来しました。本来ならば、明確に分けるところですが、今回は一緒にご紹介します。

①は、宗門改で作成された、戸籍簿の役割も果たした帳面の宗門人別改帳(写真1)等です。

②は、京都町奉行所から出された触を書き留めた触留(写真2)等です。これについては『京都町触集成』(全15巻)に翻刻されています。

③は、町の規約の町式目(写真3)や毎月二日の寄合いの出席簿の判鑑、町が共同体として雇用し町の種々の雑用・警備を担当させた町用人、番人に関する文書等です。

④は、町から町奉行所などに提出された願書、町奉行所等の諮問に対する返答書等です。

⑤は、町の入用帳及び金銀関係の書付類です。

⑥は、家屋敷の売買関係の証文、相続等に基づく譲り証文、町に借家人として来住する者やその保証人が町に差し出した借家請状等です。

(2) 下古京上良組(古町組)

町の集まりで、下京に8組あった町組の1つの上良組に關係する文書です。同組の内部は、さらに、古町、新町などの小規模な町組に分かれていました。2町とも古町の町組に属していました。寄合い時の席順の定書、町の名札、町組内の各町が回り持ちで保管していた、重要文書を納めた町箱の受け渡しの受取状、町組内の当番町から寄合いの開催などを通知する廻状、新任の所司代が入京する際の出迎えと、年頭の江戸での將軍拝礼に関する文書などがあります。

(3) 年行事

2町が關係していた江戸時代の京都の警備に関する年行事の規約・申合せなどです。

(4) 講

祇園關係、近辺諸寺の講に関する入用帳類です。

(5) 祇園会

主に北町が關係する祇園会の鷹山に関する文書(写真4)です。残念ながら、山は元治元(1864)年の火災で一部を残して焼失しています。文書の多くは『祇園会山録「鷹山」關係史料』(同志社大学人文科学研究所)として翻刻されています。

(6) 近代衣棚町

慶応4年7月に2町が合併されて衣棚町となったあとの土地關係の台帳、触書、達書などです。

(7) その他

衣棚町との關係が確認できない私文書等です。

以上、三条衣棚町文書の概要をご紹介します。

なお、寛文5(1665)年から同町に居を構えて法衣商として出発し、近年まで和装關係の会社として続いた千吉西村家の文書も当館にご寄贈いただいています。併せてご活用ください。

(歴史資料課・古文書担当 山田洋一)



▲写真1



▲写真2



▲写真3



▲写真4

先人達の京都研究

会 期 平成19年2月17日(土)～3月25日(日) (3月14日(水)、21日(祝)は休館)
午前9時～午後4時30分

会 場 京都府立総合資料館 2階展示室 (入場無料)

■列品解説 2月24日(土)、3月10日(土) 午後2時～ (事前申込不要)

■記念講演 (府民講座)

◇3月1日(木) 午後2時～

松田万智子 (当館職員)

演題「忘れられた近代京都の文化人達—小西大東を中心に—」

◇3月9日(金) 午後2時～

小林丈広氏 (京都市歴史資料館)

演題「『平安通志』をめぐる人々」(仮題)

◇3月15日(木) 午後2時～

山田邦和氏 (花園大学文学部教授)

演題「江戸時代の平安京研究」(仮題)

※受講ご希望の方は、受講希望日、氏名、電話番号を明記し、はがき、FAX又はメールでお申し込みください。(先着順) *満席で受講をお断りする場合のみ連絡します。

TEL 075-723-4831 FAX 075-791-9466 E-mail : shiryokan-shomu@pref.kyoto.lg.jp



近年、京都を知ることへの関心が高まっています。京都を知りたいという気持ちは、今に始まったものではありません。昔から、多くの人たちが京都を調べ、数多くの資料を書き残しています。京都が都だった時代には、国のことを調べるのが、そのまま京都を調べるということでもありました。

今回の企画展では、主に当館の所蔵資料の中から、京都を調べ、研究した先人たちの仕事や人となりを、次のように3部に分けて紹介します。

私たちと同じように京都に深い関心を注いだ人たちがいたこと、そして、その人たちの研究の成果が貴重な資料となって、今に伝えられているということ、この展示から感じていただければ幸いです。

第1部 江戸時代の京都研究—歴史考証と地誌の発展

江戸時代は約260年間も大きな争乱のない平和な時代が続きました。こうした太平の世ならばこそ、経済は大いに発展して人々の心が豊か



▲大内裏図考証 大嘗宮之図



▲中古京師内外地図

になり、様々な学問が発達しました。ことに京都では、有職故実など伝統文化を継承してきた公家等と、新しい実証的な研究態度を持つ民間の学者が交流する機会に恵まれており、新しい歴史考証の成果が次々と生み出されました。

また、地方ではその地域の文人等により、それまで地域で語り伝えられてきた歴史や伝承を編纂したり記録としてとどめたりするという動きが各地で見られようになりました。

ここでは、江戸時代における歴史考証と地誌に関わる資料を紹介します。



▲高橋大隅両家秘伝供御式目

第2部 近代の京都研究

ここでは、明治・大正・昭和戦前期の「京都研究」にかかわる資料を展示します。

まず、『平安通志』などを編纂した湯本文彦の仕事にスポットをあてています。湯本は京都府職員として、明治期に各



▲維新前民政資料 京都古文書
(天正2年正月織田信長朱印状模写)

種の調査・研究事業にたずさわり、現在でもよく利用されている「京都府寺誌稿」などの資料をまとめた人物です。

次に、20世紀初頭の「京都研究」と、その時期の府政や国の方針との関わりを紹介します。

昭和に入って京都は本格的に観光地化していきます。またこの時期には「郷土教育」が各地で盛んになりました。そのテキストとして作られた各種の「郷土読本」を展示します。



▲山国読本(上)、与謝郡誌 修正五版(下)▲

第3部 京都研究をめぐる人々

ここでは、京都研究に尽力した人々について、それぞれの功績を著作等とともに紹介します。今では人名事典にも記載がないような忘れられた人物にも光を当てます。

まず、平安遷都千百年紀年祭に関わった人々のうち、田中教忠(勘兵衛)、碓井小三郎、高橋正意の3人を取り上げます。碓井の写生帳や高橋の自筆本等、当館ならではの資料を展示します。

次に、アカデミズムの京都研究者として、京都帝国大学史学科国史学専攻の草創期の卒業生、西田直二郎と、西田の二年後輩で『京都叢書』(増補版)を編纂した粟野秀穂を取り上げます。

最後に、民間の歴史研究団体である京都史蹟会と、関連する人物を紹介します。創設者である呉服商千吉の西村吉右衛門、史蹟会の講師を務めた学者の小西大東、史蹟会会員で後に史述美術同友会を主宰した川勝政太郎の3人について、関係者のご遺族からの寄贈資料も交えて展示します。



▲袖中写帖



▲京都史蹟会有志名簿

近代文学資料 天眠文庫関係資料

—残された写真・図書資料から—



▲小林天眠

平成18年3月から「天眠文庫関係資料」の写真、図書、雑誌資料を公開しています。

今回は、小林天眠と文学会・文学者の関わりにふれながら、所蔵資料の一部をご紹介します。

文学青年「小林天眠」として

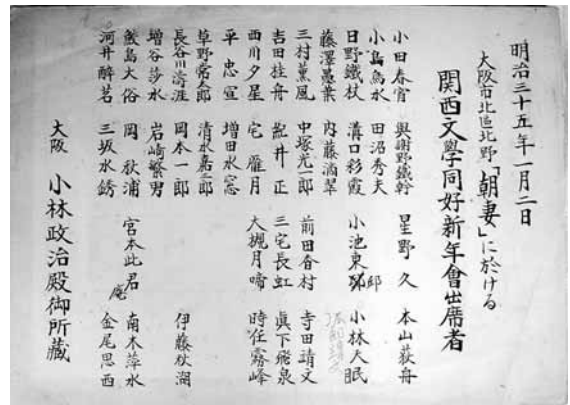
「浪華青年文学会」から「天佑社」設立の頃

明治30年4月5日、難波の翁亭で中村春雨・高須梅溪・山川伝之助が發起人となり、「浪華青年文学会」第1回大会が開催されます。それ以前から『少年文集』などに小説を書き送るなど、文学を志していた天眠も同会に参画します。

浪華青年文学会は、明治32年に「関西青年文学会」と改称、与謝野晶子はこの頃にその堺支会に入会し、鳳小舟の筆名で新体詩「春月」を発表しました。天眠と晶子の交流はこの時から始まります。



「関西文学同好会新年会」（明治35年1月2日大阪北野朝妻楼）の写真です。前右列から2人目が天眠。出席者は次の写真のとおりです。



その活動については、天眠自身が本名の小林政治の名前で「浪華青年文学会について」という一文を『立命館文学』*第5巻第3号（昭和9年4月18日発行）に寄せています。

さて、浪華青年文学会が発行していた『よしあし草』は、明治33年7月まで続き、一時廃刊となりますが、同年9月『関西文学』と改題されて再び登場します。しかし、翌年2月20日発行の第6号で廃刊となります。

この状況にいたった天眠たちは、「これだけ骨折つて纏めて来た会をこのまゝムザムザ解散して、会員が永久に離散してふことは、いかにも残念である。」と考え、自ら出版会社を創立することを考えます。

具体的に行動を起こし始めた天眠は、明治36年4月、中村春雨・堀部靖文と天佑社創立に向けて相談をし、同年7月には『明星』に「天佑社設立趣意書」を掲載します。天眠26歳の時でした。その後、明治43年1月、天佑社「創立規約」を作成、株式の募集が始まります。そしてようやく、大正7年5月に株式会社天佑社を創立し、東京で開業します。

大正12年9月の関東大震災で天佑社は瓦解します。天佑社は、与謝野晶子、島村抱月、河合醉茗、佐藤春夫などの作品170冊余りを出版し、

美しい装丁と質の高い内容に、天眠の文学や文学者たちへの姿勢がうかがわれる貴重な資料になっています。

その設立からの経緯については、『四十とせ前』*（昭和14年9月6日私家版）の文中、「出版会社『天佑社』の事ども」に述べられています。

天眠と文学者とのつながり

－小林家と与謝野家－

ところで、こうした活動を続ける間にも、天眠からの与謝野鉄幹・晶子夫妻への協力や援助は様々な形で行われていました。

与謝野夫妻は、短冊や色紙などへの揮毫による収入活動のため歌行脚をしています。夫妻初めての歌行脚は大正6年の六甲苦楽園からでした。

右上の写真は、大正6年5月末、六甲山苦楽園での与謝野家と小林家の両家族です。この時のことについては、『思い出 わが青春の与謝野晶子』*（与謝野迪子著、三水社発行）の中に記されています。

「写真屋は岩の露出した小高い所によい足場を見付け、カメラの三脚をすえた。義母は大きな石に寄りかかるように、義父、オーちゃん、私達は、写真屋の言う場所にめいめい立ったりしゃがんだりした。」

※筆者与謝野迪子は小林家の三女で、与謝野の長男光と結婚した。文中の義母は晶子、義父は鉄幹のこと。

小林天眠は実業の世界に身をおきながらも文学に対する熱意と関心を持ち続け、多くの文学者達と交流を深めてきました。天眠文庫は、天眠が買い集めたコレクションではなく、天眠自身の暖かくスケールの大きな人柄に引き寄せられた文学者たちとの交流の中から天眠のもとに集まった貴重な資料群です。

（注）*は当館所蔵資料



右から1人おいて、長女安也子、小林天眠、与謝野アウギュスト、長男基治、三女迪子、与謝野鉄幹、二女美弥子、妻雄子、与謝野晶子



同じ頃でしょうか。年月日は記録が残っていないのではっきりわかりませんが、右から晶子、小林雄子（天眠夫人）です。後方に「人力車切符発売所」とあります。



天眠の著書から『四十とせ前』『毛布五十年』*▲

ここでご紹介した資料は、同氏のご遺族である池田真理子氏などの方々からご寄贈いただいたものです。

（総合資料館だより 2006年1月号参照）



最近の収集資料から(平成18年9月～11月)



◆図書資料

〈京都〉

院政期の内裏・大内裏と院御所 高橋昌明編
文理閣 2006 393p (平安京・京都研究叢書)

中世京都の都市と宗教 河内将芳著 思文閣出版
2006 8, 397, 12p

平安京西の京厨町物語 高津明恭著刊 2006
111p 寄贈

おらが長岡京は歴史の宝庫 長岡第四小学校区
生涯学習推進委員編刊 2006 1冊 寄贈

竹野区誌 竹野区誌編集委員会編 竹野を知る
会 2006 121p 寄贈

京都学の企て 知恵の会編 勉誠出版 2006
7, 291p 寄贈

京都大学文学部の百年 『京都大学文学部の百
年』編集委員会編 京都大学大学院文学研究科・
文学部 2006 212p 図版8p 寄贈

京都町家の坪庭 水野克比古著 光村推古院
2006 146p

〈人文〉

近世国書版本の研究 日下幸男編 龍谷大学文
学部日下研究室 2006 396p (龍谷大学仏教
文化研究所共同研究報告書) 寄贈

近代日本礼儀作法書誌事典 陶智子・綿拔豊昭
編著 柏書房 2006 652p

日本の祭り文化事典 星野紘・芳賀日出男監修
東京書籍 2006 971p 図版16p

戦国期印章・印判状の研究 有光友學編 岩田
書院 2006 441p

近代天皇制と古都 高木博志著 岩波書店
2006 22, 310, 10p

黄檗禅林の絵画 錦織亮介著 中央公論美術出

版 2006 319p 図版40p

書の国宝墨蹟 大阪市立美術館・五島美術館編
読売新聞大阪本社 2006 328p 寄贈

夕張 風間健介写真集 風間健介著 寿郎社
2005 199p

〈官庁〉

くらしの豆知識 2006 国民生活センター編
京都府消費生活科学センター 2005 263p

京都府水防計画 平成18年度 京都府[編]刊
[2006] 10, 314p

京都の棚田 棚田のあるふるさとの風景 棚田
ハンドブック 京都府農林水産部耕地課[編]刊
[2000] 22p

京都市市民参加推進レポート より身近に実感
できる市民参加を 京都市総合企画局プロジェ
クト推進室[編]刊 2006 39p 寄贈

園部町・八木町・日吉町・美山町合併の歩み
「南丹市」誕生 京都府南丹市編刊 2006 193p
寄贈

中小企業施策総覧 平成18年度版 中小企業庁
編 中小企業総合研究機構 2006 473p

消費者物価接続指数総覧 平成17年基準 総務
省統計局編刊 2006 573p 寄贈

労働災害動向調査報告 労働災害動向調査 甲
調査・乙調査 平成17年 厚生労働省大臣官房
統計情報部編刊 2006 77p 寄贈

事業所・企業統計調査報告 平成16年第1～3
巻 総務省統計局編刊 2006 49冊

◆文書資料(新しく公開する資料)

三条衣棚町文書 旧三条衣棚町(京都市中京区)
の町文書(詳細は今号「寄贈資料紹介」)。慶長
10(1605)年～明治28(1895)年。10239点。寄贈。

大久保家文書・丙 伏見奉行所領の深草村（京都市伏見区）庄屋である大久保家の文書。諸事覚等。享和3（1803）年～明治4年。13点。

最上屋喜八家文書・乙 紅花の荷主問屋をしていた最上屋の文書。天保年間。158点。

東山松本家文書 文化年間、弘化年間の長寿者を記したもの。1点。

人民告諭大意 明治元年、京都府が時代の変化に人々が不安を抱かないよう、新政府の方針等を示したもの。1点。

武鑑 江戸時代の大名・幕府役人の名鑑。嘉永4年。1点。

京図名所鑑 木版刷りの京都名所案内図。安永7（1778）年。1点。

原田氏旧蔵資料 明治初期の園部藩（県）の租税取立の資料、祇園町八坂神社周辺遊覧図。3点。

松山氏旧蔵資料 幕末（文久3～元治元年頃）の風説書の写。2点。

石井家文書 いわい 公家石井家より家領相楽郡菅井村（精華町）庄屋にあてた文書。文久元年。2点。

本多辰次郎文書・丁 宮内省臨時帝室編集局御用掛を勤めた本多辰次郎の仕事のための下書・メモ書。4点。寄贈。

大西家文書 伏見稲荷大社の社家に伝来した資料。応永年間頃の足利義持御内書、寛永年間頃の後水尾天皇筆和歌及び聖護院道晃筆和歌、享保年間頃の荷田春満短冊。4点。寄贈。

「東寺百合文書」第4巻を刊行

当館では、所蔵している国宝・東寺百合文書の翻刻事業を行っています。今年度、その第4巻を刊行しましたので、概要を紹介します。

翻刻は、「イ函」「ロ函」のように名付けられたカタカナの函を、イ・ロ・ハ…の順に進めています。この巻には「ロ函」の最後の部分39点と、「ハ函」の94点を収めています。

「ロ函」の文書のうち、年号を持つ文書は、元亀元（1570）年以後の安土・桃山時代のもので、ほとんどが東寺の仏事に関するものです。また年号のない文書は、山城国西岡地域に関わる土豪・地侍層の書状が多くを占めています。

「ハ函」には、若狭国太良庄（現在の福井県小浜市）関係の資料が多く含まれています。太良庄は鎌倉時代の建保4（1216）年に成立し、仁治元（1240）年に東寺領となった荘園で、早くから数多くの著作・論文が発表され、特に研究が進んでいるところです。この巻には、鎌倉時代の

嘉禄2（1226）年から南北朝時代の明德元（1390）年までのものを収録しています。

その中には、土地台帳や荘官の補任状（辞令）、百姓からの申状、年貢の算用状などが多く含まれています。これらは、土地の実態や制度、百姓の実情と考え方、現地と領主との関係、地域の産物や価格と租税の制度など、多様な事実を現在に伝えています。太良庄百姓の自立性を示すものとして、荘官の不法をめぐって領主東寺との間で様々な応酬を繰り返す模様が、いくつもの申状の中に窺えます。

第4巻の概要

書名	「東寺百合文書 四」
内容	ロ函39点・ハ函94点
規格	A5判
页数	456頁
定価	9,500円（本体価格）
発行者	（株）思文閣出版
発行日	平成18年11月20日

総合資料館府民講座のお知らせ

企画展「先人達の京都研究」の記念講座を、3月1日(木)、9日(金)及び15日(木)に開催します。演題・講師等詳細は、6～7頁をご覧ください。

メールマガジン創刊

10月5日に「総合資料館メールマガジン」を創刊しました。隔週水曜日に発行しています。

展覧会や府民講座など、総合資料館の行事案内をいち早くお知らせする他、新着資料の案内や資料に関するコラムなどを掲載します。

現在、「過去の出来事」、「京の風景（江戸時代編）」などを連載中です。是非ご登録ください。

※登録方法

総合資料館ホームページにメールマガジンの登録ページがあります。メールアドレスを入力して登録ボタンを押してください。

ご登録のメールアドレス宛に「総合資料館メールマガジン」が届きます。

登録ページのURL

<http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/maga.html>

バックナンバーも公開していますので、お気軽にご覧ください。

友の会事務局から

◎19年度「友の会」会員募集

- ◇会費 年額 2,000円（4月～翌年3月）
- ◇申込方法 所定の申込用紙兼払込取扱票に必要事項を記入の上、会費を郵便局に払い込んでください。
- ◇受付期間 1月5日(金)～3月14日(水)
- ◇詳しくは友の会事務局(総合資料館庶務課内 TEL 075-723-4831)までお尋ねください。

◎ 平成18年度の見学会を、10月31日、11月1日の両日実施し、146名の会員の皆さんの参加

を得て、南丹市の美山かやぶきの里、小浜市の福井県立若狭歴史資料館、神宮寺、高島市の興聖寺を訪ねました。

見学地が遠方であったこともあり、少し慌ただしい行程でしたが、天気にも恵まれ、思い出に残る1日を過ごしました。

日誌（平成18年9月～11月）

- 9.12(火) 第178回古文書相談
- 9.14(休) 第179回古文書相談
- 9.15(金) 府民講座（第36回）
- 9.30(土)～10.31(火) 第21回東寺百合文書展
- 10.19(休) 府民講座(第37回)
- 10.27(金) 第180回古文書相談
- 11.4(土) 府民講座(第38回)
- 11.14(火) 第5回古文書解読講座（初心者A・Bコース）
- 11.15(水)～11.17(金) 第5回古文書解読講座（初心者Aコース）
- 11.18(土) 府民講座(第39回)
- 11.20(月)～11.22(水) 第5回古文書解読講座（初心者Bコース）
- 11.28(火)～12.1(金) 第5回古文書解読講座（一般Aコース）

利用案内

休館日 祝日法に規定する休日、
毎月第2水曜日、資料整理期、
年末年始（12月28日～1月4日）

【1月～3月の休館日】

12月28日(休)～1月4日(休)、1月8日(祝)、
1月10日(休)、2月12日(休)、2月14日(休)、
3月14日(休)、3月21日(祝)

開館時間 午前9時～午後4時30分

交通 京都市地下鉄烏丸線・北山駅下車
市バス④ ⑧ 北山駅前下車
京都バス⑳ ㉔ ㉕ 前萩町下車

ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

発行 京都府立総合資料館
京都府立総合資料館友の会(振替 01030-2-11991)

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1の4
TEL(075)723-4831 FAX(075)791-9466

○本誌に関するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。



古紙配合率100%再生紙を使用しています